

### 4-3. 第3回創造農村部会

第3回創造農村部会はオンラインで開催した。部会員の真庭市より取組について発表し、課題等を共有して意見交換を行い、来年度以降の部会活動についての協議を行った。

開催日時	令和5年1月20日（金）14:00～15:45
開催方法	オンライン（Zoom）
主催	丹波篠山市
共催	文化庁、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）
事務局	丹波篠山市
参加人数	14名
参加自治体・団体数	5自治体
次第	<input type="checkbox"/> 開催挨拶 ・垣内由起子氏（丹波篠山市観光交流部商工観光課 係長） <input type="checkbox"/> 第2回創造農村部会の振り返り ・CCNJ事務局アルパック <input type="checkbox"/> 真庭市による取組紹介発表 ・高橋伸恵氏（真庭市生活環境部スポーツ・文化振興課） <input type="checkbox"/> 来年度の創造農村部会について ①運営の枠組について ②次年度以降に実施する部会の取組内容について ③現地開催で実施する取組内容について

#### 【全体概要】

- 真庭市が取組の発表を行い、主な産業となる林業と、その林業を活かした文化活動について紹介され、その後、部会員で意見交換を行った。
- 来年度の創造農村部会の回数や実施内容等の運営について事務局案を提示し、部会員と来年度以降の部会で実施する勉強会テーマや、現地開催部会の実施方法やテーマを検討した。最後にCCNJ顧問の佐々木雅幸氏より総括をいただいた。

#### 【担当者ミーティング概略】

##### 1. 真庭市による取組紹介の発表概略

真庭市の担当者から、市で主な産業とする林業を軸とした観光や文化の活動を通じてSDGsの達成を図っていく複数の取組みについて紹介された。発表後、各部会委員からの質問があり、活発な意見交換が行われた。

##### 2. 来年度の創造農村部会の検討概略

来年度の創造農村部会の運営方法について部員間で検討し、来年度は全3回の部会を開催すること、また全3回のうち、第1回または第2回で現地開催を実施することが決定した。来年度の現地開催都市は可児市に決定した。残りの2回はオンラインで開催する。次年度以降に実施する部会の取組内容としての勉強会のテーマ等及び、公開型で実施を予定している現地開催での取組内容について、部会員で検討した。勉強会及び現地開催のテーマは事務局で再度検討し、部会員に提案することになった。

## 【総括要旨】

真庭市からの創造農村の取組紹介の発表を聞き、木材とバイオマスが地域循環型の経済を創ることを取りあげた「里山資本主義」としてマスコミでも注目されたことを思い出した。CCNJ 加盟団体にもその実態の共有を図るべく、2016年8月に真庭市で創造農村ワークショップを開催した。自然と文化を融合した創造的な活動は大都市ではできない大変大きな要素である。本質的な豊かさを可視化することが創造農村の取組を行う上で大事なことだ。環境と文化の両側面から創造農村部会の取組を行い、CCNJ が掲げている「創造都市政策を通じてSDGsに貢献する」という点では、真庭市の創造農村としての取組は最先端であると言える。

今年は創造農村部会発足の1年目で、5つの自治体で率直な意見交換を行ってきた。現在既に、北海道から九州まで広域的に輪が広がっているが、各自治体からも関心ある自治体に声をかけて、次年度さらに輪が広がっていくことに期待している。そのきっかけとなるように、来年度は可見市での現地開催を成功させたい。2012年に通常よりも大きな創造農村フォーラムを篠山市で開催したが、これが輪を広げるのに役立った。それに近い規模で実施できると良い。

